様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ２３３０８

研究課題名（和文）アイヌ民族の人々に関する「先住民族教育」についての共同研究

研究課題名（英文）Collaborative Research with Ainu people on Indigenous Education

研究代表者
岩佐　奈々子（Iwasa, Nanako）

北海道大学・教育学研究院・専門研究員

研究者番号：５０８４６２５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アメリカ・ハワイ州のNative Hawaiians（NH）の人々に関する「教育」と「観光」について、１）ハワイ州教育省によるNHに関する教育指針と教育活動の効果的連携、２）ハワイ大学システムのシステム化された実践的教育プログラムとその方法、３）地域のパブリック・チャータースクールや学習センターの現状、４）質の高い観光を提供するためのガイド育成のための教育プログラムなどが明らかになった。これからことを踏まえ、５）先住民族の人々の民族性を尊重するためのストーリーの重要性とその聞き方の効果的な方法を検討した。これらの成果をアイヌの研究協力者と共有し、オンライン・シンポジウムで公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究において、ハワイ州教育省の教育指針や実践的な教育プログラム、学校教育におけるNH向けの教育プログラムなどの情報や知見をアイヌの研究協力者と共有し、先住民族の視点から共同で検討することは、今後のアイヌの人々の教育を考える上でアイヌの当事者性を「意識化」することを可能にした。また、アイヌの人々との共同研究は、これからの教育を先住民族という観点から意識的に考える機会を生み出し、新しい研究とその方法を検討する機会にもつながった。さらに、日本社会側にも先住民族を内包する社会として、アイヌ民族に関する教育や研究をどのように位置づけ、どのような方法が適切なのかを自ら問う機会を生み出した。

研究成果の概要（英文）：In this study, "education" and "tourism" regarding Native Hawaiians (NH) in the state of Hawai’i are found: 1) the effective connections between the educational guidelines and educational programs/activities of Hawai’i State Department of Education, 2) the systematic and practical educational programs and methods of the University of Hawai’i System, and 3) the current situations of a local public charter school for NH students. As for the tourism, the study also found 4) the role of educational programs for developing tourist guides of university/NH students on famous tourism locations in order to maintain high quality tourism on Oahu Island. The results showed 5) the need of systematized educational guidelines and programs, and practical methods in order to respect NH/indigenous ethnicity. These results were shared with local Ainu research collaborators, and some of the findings were published in an online symposium.

研究分野：教育学

キーワード：教育学　地域教育　アイヌ民族　先住民族教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

日本の先住民族であるアイヌ民族は、1997 年以降、法律、及び政策が歴史的な転換点を迎え、それに伴いアイヌの人々の生活とアイヌ文化が大きな影響を受け、アイヌの人々自身の自己認識も変化している。

1997 年に「アイヌ文化振興法」が制定され、約 100 年続いた北海道旧土人保護法が廃止され、アイヌ語・アイヌ文化に関する事業化された教育が始まり、アイヌである自己受容に困難さを抱えていたアイヌの人々が、アイヌである自己を肯定的に認識することが可能になった。また 2008 年には、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が衆参両院で採択され、アイヌの人々の中に「アイヌ民族は日本の先住民族である」という自己認識と自己尊厳が生まれることになった。

2019 年に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律案」が成立し、アイヌの人々が先住民族として誇りを持って生活し、その誇りが尊重される社会の実現と相互理解と尊重のある共生社会の実現を目指すための施策が取られることになった。しかし、このようなアイヌ民族に関する法的な進展がある中でも、先住民族という観点からの政策はほとんどなく、またアイヌの人々自身が先住民族性について考え、先住民族という新しい自己認識を「意識化」するような教育がほとんど見られない。さらに、アイヌの人々が、アイヌ民族の教育について主体的に関与するような研究や共同研究は、これから進展が望まれている状態である。

２．研究の目的

本研究は、アイヌ民族の人々が先住民族として新しい自己認識の形成を促す教育を「先住民族教育」と位置づけ、「PAL Learning Method」を用いて「先住民族教育」に関する新しい学習プログラムをアイヌの人々と共同で探求し、開発することを目的とする。そのために、アイヌの人々が研究に主体的に関わり、アイヌ民族の民族性を尊重した「教育」について自ら明らかにしていく、という当事者性を尊重した共同研究を目指していく。

３．研究の方法

本研究は、「PAL Learning Method」(PAL: Place-based Active Learning)（岩佐 2019）を基に、先住民族の人々の社会的課題解決のための「意識化」を促す３つのステージを用い、アイヌ民族の人々の教育についてアイヌの人々と共同で検討する。その３つの研究プロセスは、①脱フレーム化：海外の先住民族に関する現地調査を実施し、②意識化：調査結果をアイヌの人々と共有し、③再フレーム化：現状の認識と課題に関する新しいフレームをアイヌの人々と共同で検討する、という方法を用いる。

また本研究は、アイヌの人々が置かれている現状を鑑み、「教育」と「観光」という２つのテーマに焦点を当て、①ハワイ州における Native Hawaiians の人々の教育に関する具体的な教育プログラムと学習活動の調査をアイヌの研究協力者と実施し、②その調査結果を北海道内の３つの地域のアイヌの研究協力者と共有し、アイヌの人々の現状を意識化し、③アイヌの人々に関するこれからの「教育」について共同で検討を行う、という共同研究を計画した。

４．研究成果

本研究における「教育」と「観光」に関する主な成果を以下に概要で示す。

１：ハワイ州における Native Hawaiians (NH)の人々に関する学校教育

（１）ハワイ州教育委員会（HIDOE: Hawai‘i State Department of Education）

ハワイ州における NH の人々、及び文化に関する教育は、1840 年のカメハメハ３世のハワイ王国憲法の交付により公教育制度が開始されることで始まった。しかし、1893 年のアメリカ合衆国によるハワイ王国の転覆によるハワイ共和国の成立を一方的に行い、1896 年に西欧式の学校制度を設立させ、学校教育の中での NH の人々の言語の使用を禁止し、その状況が 1978 年まで 85 年間続いた。1959 年にハワイがアメリカ合衆国の１つの州、ハワイ州となる。

1978 年の憲法制定会議でハワイ州憲法が改正され、Office of Hawaiian Affairs (OHA)が設立され、州憲法の第 10 条 4 項で Hawaiian Education の教育プログラム（言語、文化、歴史）を公教育で実施すること、第 15 条 4 項でハワイ州における公用語として英語とハワイ語を用いること、を定めた。さらに、1994 年に合衆国議会がハワイ先住民教育法を制定し、NH の人々に独自の教育を実施するために必要な追加プログラムの設置を認め、2015 年に Office of Hawaiian Education

(OHE)が HIDOE の中に設立され、教育の中で Hawaiian Education が始まった。
　その後、教育の中に Hawaiian Studies が導入され、K-12 の教育の中にカリキュラム化されて NH　の言語、文化が現行の授業科目と統合して実施することが可能になった。また、Kupuna と呼ばれる NH の老人を尊重するためのプログラムやハワイ語のイマージョンプログラムを持つ学校が生まれ、NH を取り巻く教育が一機に進展した。しかし、主流となる公教育の科目が "Language Arts, Math, Science"を中心に進められ、学校評価と関係しているために、公立学校では NH に関する教育プログラムを実施してはいるものの、これらの科目が重要視される。このような中で、2015 年から HIDOE の OHE で、「HA: BREATH」という新しい教育指針を打ち出し、NH の文化を用いて学校と地域をつなぐ新しい教育の取り組みが始まり、NH の文化を実際に経験する様々な学習プログラムと教育活動が展開している。

（２）ハワイ大学システム
（計 10 校　４年制３校：UH Manoa, West Oahu, Hilo、２年生７校：Community College）
①４年生大学：　University of Hawaii at Manoa の事例
　◇教育学部:公教育の教員養成、研究が中心となり、先住民族教育という単独の講座はないが、NH の教員が多数存在し、NH に関する様々な教育、学習プログラム・活動を個々に展開している。NH に特化した教育は、別学部となる Hawaiian Studies がある。
　◇社会学部：Manoa 校におけるサービス・ラーニング・プログラムを各学部と連携し、統括して実施している。NH に関するプログラムとなる「MINA プログラム」で地域の NH に関する現実的なプログラム（例：山間部、海岸にある Heiau：聖地の掃除、祈りなど）を行い、各学部からの登録学生に単位の提供を行っている。
　◇法学部：Native Hawaiian Law Certificate プログラム。NH に関する法律を学ぶ学習プログラムがあり、必修項目を習得するとこで NH に特化した法律習得者の証明書を発行している。
　◇エスニック・スタディーズ：　NH に関する質的調査（インタビュー）の学習と現地調査を通して、ハワイ州に在住する NH の人々の Story Map の作成を行っている。
　◇Center for Oral History (COH)：社会学部、エスニック・スタディーズ、バイオグラフィ・センターなどと連携した教育プログラムとプロジェクト研究を行っている。（例：日系人、NH の人々へのインタビューなどによる質的データの収集、分析、管理などの学習と実践）
　◇Hawaiian Studies: ハワイ語学部から始まった学部で、学部、及び大学院教育のカリキュラム化された NH に特化した教育を行っている。敷地内に併設するタロ畑、薬草畑、マラエ（集会場）などを用いて、実際の NH の言語、生活、産業、薬学、踊り、言語、儀礼、文化など NH の生活全般を学習する教育を実施している。

②２年生カレッジ：　Leeward Community College（LCC）の事例
　LCC はオアフ島西地区のハワイ州で NH の人口が一番多い地域にあるコミュニティ・カレッジ。この西地区の公立高校を卒業後に進学できるカレッジであり、地域の若者が４年生大学に行く前に、最初に NH に関する教育を受ける学校になる。NH に関する教育は、Hawaiian Studies コースがあり、コアコース：１７単位（NH の基礎科目、神話など文系単位として互換性のあるコース）と、Hawaiian Studies コース：６０単位（NH に関する４カテゴリー：環境科学、芸術、歴史・文学、Nation Building）の学習プログラムがある。ハワイ大学システムの４年生大学の３年次に編入する際の単位として認められている。

２：ハワイ州における Native Hawaiians: NH による地域教育
（１）パブリック・チャーター・スクール（オアフ島西地区）
2007 年に公立小学校だった学校が Public Charter School に移行した小学校～高校まである一貫校である。公教育を実施しながら地域特性に柔軟に対応し、公教育の科目と並行してハワイ語・ハワイ文化を授業の中に取り入れている地域のチャーター・スクールである。学校名は表記できないが、オアフ島の中で Native Hawaiian の人口が一番多く、また貧困率がとても高い地域にある学校で、生活そのものの困難さを持つ家庭から多数の NH の生徒が通学している。教師は、生活支援とともに成績向上のための効果的な学習方法を探求しながら、NH の情熱のある教師達の存在はとても大きなものがある。生徒たちに、NH の文化知識だけではなく、NH の大人のロールモデルを教育を通して体現している様子が見られた。

（２）オアフ島西地区の地域の学習センター
NH の祖先からの知識を受け継ぐ教育経験者が、NH の言語、文化、儀式などを地域の人々に提供する学習センターである。ハワイ文化の学習に関する様々な学校（アメリカ本土や海外）からの訪問プログラムを実施し、西地区に関する NH のエコ・ツーリズムの観光プログラムも開発している。地域が持つ NH の文化価値、自然と融合した地域のストーリーを NH 自身が紹介し、ハワイ文化に関する地域教育を行っている。ここの NH のスタッフは、上記のチャーター・スクールのための地域版の教科書の作成や体験プログラムの実施などの学習支援を行っている。

（３）ハワイ州における「観光」に関する教育（ガイド育成プログラム）

①Bishop Museum: Docent Program による NH の人々のためのガイド育成プログラム、②Polynesian Cultural Center：Brigham Young University, Hawaii (BYU)の大学生のためのガイド育成プログラムの２つを取り上げる。

この２つの観光地のガイド育成プログラムは、カリキュラムのある教育としてシステム化されており、教育プログラムとその評価基準が定められていることで、ガイドの育成と実践についての質の高さを維持し、人材教育とその人材が活躍できる仕事の提供を同じ場所で行っている。その人材育成としての効果は、初心者から上級者へのプロセスが明確に明示され、個々のレベルの証明書が発行されてステップ・アップできる仕組みになっており、この段階的な教育が学習者の向上心と学習意欲につながっている。

①では、NH 自身がガイドになることで、博物館の作品とガイド自身の出身地（島）の地域のストーリーや個人の経験などと関連付けることで、NH のガイドの特性を生み出している。また②は、オアフ島で有名な観光地の１つであるために、世界中から観光客が集まる場所になっている。そのために、大学生であっても質の高いガイドとコーディネート力が求められ、そのための教育プログラムがシステム化されている。ガイド育成のための学習、及びトレーニング・プログラム、ガイドの評価基準も高い水準が求められており、それらのプロセスを通って一人前のガイドになる。このような学習プロセスは、大変ながらもガイドの自信とプライドにつながっており、実際の観光地のプロのガイドとしての人材を輩出している。

３：研究調査から

本研究は、ハワイ州の現地調査が COVID-19 により中断を余儀なくされたが、2020 年 3 月までの調査とアイヌの研究協力者の現地調査での協力により、調査研究が可能になった。また、国内の COVID-19 の拡散の影響を受け、北海道内のアイヌの研究協力者との共同研究は現在でも続き、筆者の次の研究に引き継がれている。本調査では、「教育」に関して大学及び地域の学校や学習センターなどの教育プログラムを通して、NH の人々や文化を知るための様々な実践的な教育、及び学習プログラムが明らかになった。また、「観光」という側面では、観光地を支える現場でのガイドの存在とその役割、また NH の人々の存在や NH の文化を紹介する方法なども明らかになった。

現地調査に同行したアイヌの研究協力者に関して、NH の研究者との出会いは、アイヌである自己を先住民族研究者として肯定的に意識する機会になり、様々な場で NH 自身の語りに接したことで、先住民族の当事者性を考える機会につながった。また「先住民族」という観点からは、NH の研究者から：①先住民族としての当事者と非当事者による研究の違い、②西欧的な学問の世界の中での先住民の研究の在り方とその方法、NH のガイドの人達から：③NH 自身によるハワイ文化の「観光」での使用とその在り方、という先住民族視点からの「教育」と「観光」を考える機会につながった。さらに、先住民族文化における「聖地」という特別な場が、NH 自身が紹介する神話とその伝承されたストーリーを尊重する「観光」と、それらのストーリーを知らない NH ではない人々による観光地の１つとして紹介される“聖地に対する不敬行為”のある「観光」との違いを経験した。このようなハワイ州における「観光」の現状について、NH 自身によるストーリーの語りとその重要性、またその紹介のされ方の現状と課題を知るは、今後アイヌ民族の人々が経験するであろう未来の「観光」の実態を知る機会にもつながった。

ハワイ州の NH の人々は、アメリカ合衆国の中で居留地を持つ Native American の人々のような先住民族に関する承認を得ていないが、NH の言語、文化などが教育を通して個別の民族性/先住民族性を持つ人々として教育の中で実際に取り上げられ、NH の文化を用いた教育活動が存在している。また、その教育内容と方法は、NH の政治家、教育者/教員、研究者など様々な分野に存在する NH の人々自身がリードし、フレームを作っている。しかし、これらの NH の人々の視点や民族性を取り入れた多様性のある教育活動が現実的に実施されているものの、「社会的成功」を目指した時に、公教育が主流社会の基準で評価され、高等教育につながる教育制度は“Language Arts, Math, Science”の成績が重要になっている。また、「経済的成功」につながる教育内容は、主流社会の経済システムが影響し、主流社会の中での成功や収入で評価され、自ずと主流社会の教育制度や学習内容、また評価基準が用いられることになる。さらに、高等教育を受けた NH の人々の多くは、出身地となるローカルな地域には戻らずハワイ州の都市部やアメリカ本土で仕事をする人が多く、ハワイ州の中でローカルな地域の発展が停滞する傾向がある。但し、これらのことはハワイ州だけではなく、アイヌ民族を含めた様々な先住民族の社会にみられる教育活動や経済活動の傾向であり、今後はこのような現状を「教育」や「観光」という分野が、どのようにアイヌ民族の人々の「Well-being」につなげていくのかを検討していく必要があるだろう。

４：オンライン・シンポジウム

本研究におけるアイヌ民族の人々の「教育」や「観光」について考えるために、先住民族の人々自身が語ることの重要性とそのストーリーの語り方、語られ方について、先住民族という視点（Iwasa, Arai 2020）から考え、これからの方向性を見出すための「オンライン・シンポジウム：対話:バイオグラフィ研究とライフストーリー研究の出会いー先住民族の「声」を聞くためにー」を国内、及びハワイ大学の研究者２名と共同で実施し、研究成果を公表した。

＊関係資料リンク：URL: https://researchmap.jp/HU_Nanako_Iwasa/works/36534726

＜引用文献＞

岩佐奈々子. (2019). アイヌ民族の人々の主体形成につながる創造的学習 : 課題提起学習としての “Simulation Game, Project PAL”の開発と実践. 北海道大学大学院教育学院. 博士論文. 北海道大学. https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/74589/3/Nanako_Iwasa.pdf.

Iwasa, N., Arai, K. (2020). Ainu Puri in Research: Seeking “Our Way” for the Future Well-Being of Ainu People in Japan. In: Huaman, E.S., Martin, N. (eds). Indigenous Knowledge Systems and Research Methodologies: Local Solutions and Global Opportunities. Canadian Scholars Press.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Nanako Iwasa
２．発表標題 Simulation Game, Project PAL: Hawaii after COVID-19 ” Creating Future Visions of Indigenous Communities <HyFlex: Online & Offline >
３．学会等名 ASC 2021 (Australasian Simulation Congress 2021)（国際学会）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計2件

１．著者名 Iwasa, N. (Eds: Kaneda, T., Hamada, R., Kumazawa, T.)	４．発行年 2021年
２．出版社 Springer Science	５．総ページ数 320
３．書名 Simulation and Gaming for Social Design	

１．著者名 Iwasa, N., Arai, K. (Eds: Huaman, E.S., Martin, N.)	４．発行年 2020年
２．出版社 Canadian Scholars	５．総ページ数 382
３．書名 Indigenous Knowledge Systems and Research Methodologies: Local Solutions and Global Opportunities	

〔産業財産権〕

〔その他〕

岩佐奈々子，新井かおり，桜井厚，Craig Howes（2022年3月）
オンライン・シンポジウム、対話：バイオグラフィ研究とライフストーリー研究の出会い－先住民族の「声」を聞くために－

＜プログラムの概要＞
　アイヌ民族に関する研究は、今までその多くがアイヌ以外の人々が行ってきたが、近年ではアイヌの学生や研究者が自らアイヌ民族やアイヌ文化についての研究を行い、“自分自身のこと、あるいは他のアイヌについて書く”という新しい研究の流れが増えてきている。このような新しい動向が生まれている中で、現在、国内の学問分野に先住民族、及びアイヌ民族に関する教育や研究、研究方法・倫理についての基盤が整備されておらず、アイヌと非アイヌの双方の研究者にとって、アイヌの人々の「語り」や「ストーリー」をどのように聞き取り、記述し、そして分析するのかが明確になっていない。
　本シンポジウムでは、アイヌ民族/先住民族に関する研究について、アイヌの人々の「声/語り」に焦点を当て、国内の“ライフストーリー法”の研究者とハワイ大学マノア校の“バイオグラフィ法”の研究者の二人の発表を通して、これからのアイヌの人々の「声/語り」（ストーリー）を聞くための方法を検討していくものである。URL: https://researchmap.jp/HU_Nanako_Iwasa/works/36534726

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関